

令和6年度企業版ふるさと納税活用事業実績【資料2 ①】

事業名	益田市・まち・ひと・しごと創生推進事業 (ひとつづくり推進事業)
事業費	22,658,599円
取組内容	<p>①対話プラス 小学生と高校生、中高生と大人による1対1の対話を通して、「これまでの人生と、これからどうありたいか」自分自身の生き方について考えることで、自分の「心に火を灯す」授業を実施した。</p> <p>②高校生期のライフキャリア教育 ライフキャリア教育の推進のため、授業支援の他、学校でも家庭でもない第三の居場所（サードプレイス）の開設、多様なロールモデルとの出会いや活動支援を実施した。</p> <p>③JFAこころのプロジェクト「夢の教室」 日本サッカー協会に所属する元アスリートや現役アスリートが自分の夢を実現するためにどんな事をしたか、また挫折や悩んだ時にどのようにその苦勞を乗り越えたかについて、小学生に伝える授業を実施した。</p> <p>④益田版・職場体験 単なる仕事の体験ではなく、そこで働く「ひと」や「生き方」との出会いを大切にしたい職場体験。「どんな想いで日々働いているのか」や、働く大人のひととなりに触れることにより、自分は職業を通してどんな「ひと」になりたいかといった考える機会として職場体験を実施した。</p> <p>⑤益田市未来の担い手育成コンソーシアム 行政、教育機関、事業者などの関係機関が連携して、益田市が取り組むライフキャリア教育を推進する。令和6年度は39の教育プログラムを実施した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p style="text-align: center;">【対話プラス】      【夢の教室】      【益田版・職場体験】</p>
成果	<p>○「益田市には魅力的な大人が多い」と答えた新成人の割合 目標：80% / 実績：81.5% ※R5実績：81.0%、R4：93.5%</p> <p>○益田市で地域活動をした県外の若者の延べ人数と満足度 目標：300人、80% / 実績：253人、82.1%</p> <p>○「将来、益田に住みたい」と答えた新成人の割合 目標：80% / 実績：74.6% ※R5実績：71.6%、R4：80.9%</p> <p>○益田市で一週間程度、インターンシップや体験活動した若者の延べ人数と満足度 目標：30人、80% / 23人、100%</p> <p>○ライフキャリア教育に関わる大人の数 目標：1,000人 / 実績4,072人</p> <p>○ライフキャリア教育に関わる市外の若者の数 目標：3人 / 実績：3人</p> <p>○その他、事業実績（定量的効果。（ ）内は前年度実績）。</p> <p>①対話プラス ・14（14）小学校、9（9）中学校、5（4）高校で実施 ・対話した人数 1,427人（1,424人）</p> <p>②高校生期のライフキャリア教育 ・各校での授業実施コマ数 80（150）コマ ・高校生の地域活動の伴走支援 37（20）プロジェクト</p> <p>③JFAこころのプロジェクト「夢の教室」 ・実施校 12（11）校 ・児童数 352（396）名</p>
今後の事業展開	意識変容に関する指標（下線部分）について、前年度は減少傾向にあったが、今年度は増加する結果となった。今後、量的な指標は維持しつつ、意識変容に効果的な事業実施を検討し、いかに子どもたちの生きる力の育成や、人材の還流、持続可能な地域づくりにつながったかという点に着目し、事業展開及び効果測定を図りたい。
外部有識者による評価（ご意見）	別紙「審議結果」のとおり

総合戦略事業シート					【資料2】		No.	①		
評価対象事業分類		(1) 目標指標達成根拠事業								
具体事業		事業整理番号	事業名称		ひとづくり推進事業費					
施策体系	横断・基本目標	社会変化に対応できる持続可能なまち			総合戦略	戦略体系	横断戦略_社会変化に対応できる持続可能なまちをつくる			
	基本施策	1. 次代を担う人材の育成・確保の推進				主要施策	(1) 次代を担う人材の育成・確保の推進			
	具体施策	①将来の益田市を担う人材育成の推進			担当部署	教育委員会ひとづくり推進課				
進捗管理		目標指標	「益田市には魅力的な大人が多い」と答えた新成人の割合							
			R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標	/						80	101.9%
実績	70	77.9	78	93.5	81.0	81.5	/			
事業概要		「益田市ひとづくり協働構想」に基づき、多様な人との対話によるロールモデルとの出会いや、生き様・価値観に触れることで、自分の人生を能動的に生きていくことができる力を養うライフキャリア教育を推進し、子どもたちの生きる力の育成を図る。また、ライフキャリア教育に市外の若者が関わる機会をつくることで、「若者がチャレンジできる益田」のイメージ定着を図る。								
事業検証 (R6)		【現状】	同数値は成人式参加者を対象に調査。対象者はライフキャリア教育プログラムを受けた世代。結果は前年度とほぼ同様の結果であった。				R6 に対する 自己評価	現状把握	B	
		【課題】	目標は達成しているが、高校卒業後、益田市と繋がり続けるための機会・場がなく、次第に益田との関係性が薄れている。					課題把握	B	
		【対策】	引き続き、ライフキャリア教育の推進によるロールモデルとの出会いや対話により、益田の子どもたちに予測不能な未来を生き抜く力をつけ、未来の担い手育成につなげる。					対応策検討	A	
積算根拠 (R6)		<<事業概要>> ①小中高生ライフキャリア教育推進事業業務委託、ロールモデル接続事業業務委託の実施（プロポーザル） ②教育魅力化コーディネーター事業業務委託の実施（プロポーザル） ③JFAこころのプロジェクト「夢の教室」の実施 <<積算根拠（主なもの）>> ①16,498,000円 ②300,000円×12月=3,600,000円 ③2,300,000円 ほか						費用対効果	B	
事業費 (単位:千円)			前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費	22,658	22,697	22,697	22,697	22,697	22,697	22,697	
		国庫支出金	5,764							
		県支出金	3,500	3,500						
		地方債(10万円単位で積算)								
		その他	13,394	19,197	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	
	うち ふるさと応援基金	5,394								
	うち 地域振興基金		14,197							
	一般財源			17,697	17,697	17,697	17,697	17,697		
財源説明		県：コンソーシアム運営マネージャー配置費補助金／その他：地方創生応援税制寄付金								

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
---------------------	--------------

総合戦略事業シート					【資料2】		No.	①		
評価対象事業分類		(1) 目標指標達成根拠事業								
具体事業		事業整理番号	事業名称		ひとづくり推進事業費					
施策体系	横断・基本目標	社会変化に対応できる持続可能なまち			総合戦略	戦略体系	横断戦略_社会変化に対応できる持続可能なまちをつくる			
	基本施策	1. 次代を担う人材の育成・確保の推進				主要施策	(1) 次代を担う人材の育成・確保の推進			
	具体施策	①将来の益田市を担う人材育成の推進			担当部署	教育委員会ひとづくり推進課				
進捗管理		目標指標	益田市で一週間程度、インターンシップや体験活動した延べ人数(上段)と満足度(下段)							
			R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標							30人 80%	76.7%
		実績	30人	11人	14人 96%	21人 100%	18人 100%	23人 100%		125%
事業概要		「益田市ひとづくり協働構想」に基づき、多様な人との対話によるロールモデルとの出会いや、生き様・価値観に触れることで、自分の人生を能動的に生きていくことができる力を養うライフキャリア教育を推進し、子どもたちの生きる力の育成を図る。また、ライフキャリア教育に市外の若者が関わる機会をつくることで、「若者がチャレンジできる益田」のイメージ定着を図る。								
事業検証(R6)		【現状】	中間支援組織におけるインターンの受け入れ数及び大学生等フィールドワーク推進事業補助金活用件数をカウント。それぞれ実績は、3名、20名であった				R6に対する自己評価	現状把握	B	
		【課題】	大学生等フィールドワーク推進事業補助金について、積極的な利用促進に向けた情報発信が必要。中間支援組織のインターン受入れについては、中間支援組織の方針により受入れ人数を制限されている。					課題把握	B	
		【対策】	益田市のひとづくり施策やライフキャリア教育プログラムの成果の発信により、対象者への興味関心の醸成を図ることにより、大学生等によるフィールドワーク推進事業補助金の活用を推進する。					対応策検討	B	
積算根拠(R6)		<<事業概要>> ①小中高生ライフキャリア教育推進事業業務委託、ロールモデル接続事業業務委託の実施(プロポーザル) ②教育魅力化コーディネーター事業業務委託の実施(プロポーザル) ③JFAこころのプロジェクト「夢の教室」の実施 <<積算根拠(主なもの)>> ①16,498,000円 ②300,000円×12月=3,600,000円 ③2,300,000円 ほか							費用対効果	B
事業費(単位:千円)			前年度(実績)	今年度(予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費	22,658	22,697	22,697	22,697	22,697	22,697	22,697	
		国庫支出金	5,764							
		県支出金	3,500	3,500						
		地方債(10万円単位で積算)								
		その他	13,394	19,197	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	
	うち ふるさと応援基金	5,394								
	うち 地域振興基金		14,197							
	一般財源			17,697	17,697	17,697	17,697	17,697		
財源説明		県：コンソーシアム運営マネージャー配置費補助金/その他：地方創生応援税制寄付金								

【評価】

外部有識者による評価(ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
-----------------	--------------

総合戦略事業シート					【資料2】		No.	①		
評価対象事業分類		(1) 目標指標達成根拠事業								
具体事業		事業整理番号	事業名称		ひとづくり推進事業費					
施策体系	横断・基本目標	Ⅱ. ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち			総合戦略	戦略体系	基本戦略3_益田に帰帰・流入・定着するひとの流れをつくる			
	基本施策	1. 次代を担う人を育てる教育環境の充実				主要施策	(2) ふるさと教育・ライフキャリア教育による人材育成			
	具体施策	①地域ぐるみでの教育推進			担当部署	教育委員会ひとづくり推進課				
進捗管理		目標指標	ライフキャリア教育に関わる大人の数(益田版カタリ場、新・職場体験、中間支援組織)							
			R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標 単年							1,000	407.2%
実績	441	482	2,218	3,972	4,542	4,072				
事業概要		「益田市ひとづくり協働構想」に基づき、多様な人との対話によるロールモデルとの出会いや、生き様・価値観に触れることで、自分の人生を能動的に生きていくことができる力を養うライフキャリア教育を推進し、子どもたちの生きる力の育成を図る。また、ライフキャリア教育に市外の若者が関わる機会をつくることで、「若者がチャレンジできる益田」のイメージ定着を図る。								
事業検証(R6)		【現状】	ライフキャリア教育プログラムに多くの大人が関わったことにより、ロールモデルである多様な人との対話を通し、その生き様・価値観に触れる機会を多く創出することができた。				R6に対する自己評価	現状把握	B	
		【課題】	ライフキャリア教育プログラムに関わる大人・団体が固定化されつつある。					課題把握	B	
		【対策】	引き続き多くの大人に関わってもらえるよう、関係団体等を通じて働きかけを行うとともに、他事業からライフキャリア教育に接続する仕組みづくりを構築する。					対応策検討	B	
積算根拠(R6)		<<事業概要>> ①小中高生ライフキャリア教育推進事業業務委託、ロールモデル接続事業業務委託の実施(プロポーザル) ②教育魅力化コーディネーター事業業務委託の実施(プロポーザル) ③JFAこころのプロジェクト「夢の教室」の実施 <<積算根拠(主なもの)>> ①16,498,000円 ②300,000円×12月=3,600,000円 ③2,300,000円 ほか							費用対効果	B
事業費 (単位:千円)			前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費	22,658	22,697	22,697	22,697	22,697	22,697	22,697	
		国庫支出金	5,764							
		県支出金	3,500	3,500						
		地方債(10万円単位で積算)								
		その他	13,394	19,197	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	
	うち ふるさと応援基金	5,394								
	うち 地域振興基金		14,197							
	一般財源			17,697	17,697	17,697	17,697	17,697		
財源説明		県：コンソーシアム運営マネージャー配置費補助金／その他：地方創生応援税制寄付金								

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
---------------------	--------------

総合戦略事業シート					【資料2】		No.	①		
評価対象事業分類		(1) 目標指標達成根拠事業								
具体事業		事業整理番号	事業名称		ひとづくり推進事業費					
施策体系	横断・基本目標	Ⅱ. ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち			総合戦略	戦略体系	基本戦略3_益田に回帰・流入・定着するひとの流れをつくる			
	基本施策	1. 次代を担う人を育てる教育環境の充実				主要施策	(2) ふるさと教育・ライフキャリア教育による人材育成			
	具体施策	⑦ライフキャリア教育の推進による生きる力の育成			担当部署	教育委員会ひとづくり推進課				
進捗管理		目標指標	ライフキャリア教育に関わる市外の若者の数							
			R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標 単年							3	100.0%
実績	-	6	7	7	3	3				
事業概要		「益田市ひとづくり協働構想」に基づき、多様な人との対話によるロールモデルとの出会いや、生き様・価値観に触れることで、自分の人生を能動的に生きていくことができる力を養うライフキャリア教育を推進し、子どもたちの生きる力の育成を図る。また、ライフキャリア教育に市外の若者が関わる機会をつくることで、「若者がチャレンジできる益田」のイメージ定着を図る。								
事業検証 (R6)		【現状】	中間支援組織におけるインターンの受け入れ数をカウント。なお、中間支援組織の方針により受入れ人数を制限している。				R6 に対する 自己評価	現状把握	A	
		【課題】	特筆事項なし。					課題把握	A	
		【対策】	引き続き、中間支援組織と連携（事業委託）し、ライフキャリア教育に関わる市外の若者の活躍の場を創出する。					対応策検討	A	
積算根拠 (R6)	<<事業概要>> ①小中高生ライフキャリア教育推進事業業務委託、ロールモデル接続事業業務委託の実施（プロポーザル） ②教育魅力化コーディネーター事業業務委託の実施（プロポーザル） ③JFAこころのプロジェクト「夢の教室」の実施 <<積算根拠（主なもの）>> ①16,498,000円 ②300,000円×12月=3,600,000円 ③2,300,000円 ほか				費用対効果	B				
事業費 (単位:千円)			前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費	22,658	22,697	22,697	22,697	22,697	22,697	22,697	
		国庫支出金	5,764							
		県支出金	3,500	3,500						
		地方債(10万円単位で積算)								
		その他	13,394	19,197	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	
うち ふるさと応援基金	5,394									
うち 地域振興基金		14,197								
一般財源			17,697	17,697	17,697	17,697	17,697			
財源説明		県：コンソーシアム運営マネージャー配置費補助金／その他：地方創生応援税制寄付金								

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
---------------------	--------------

総合戦略事業シート					【資料2】		No.	①		
評価対象事業分類		(1) 目標指標達成根拠事業								
具体事業		事業整理番号	事業名称		ひとづくり推進事業費					
施策体系	横断・基本目標	Ⅲ. 産業・観光振興による活力のあるまち			総合戦略	戦略体系	基本戦略1_定住の基盤となるしごと			
	基本施策	3. 雇用・産業基盤の強化				主要施策	(1) 次代の産業の担い手育成			
	具体施策	③次代を担う若者の地元就職の促進と定着支援			担当部署	教育委員会ひとづくり推進課				
進捗管理		目標指標	キャリア教育に参加した企業数							
			R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標 実績	単年						250	56.0%
事業概要		「益田市ひとづくり協働構想」に基づき、多様な人との対話によるロールモデルとの出会いや、生き様・価値観に触れることで、自分の人生を能動的に生きていくことができる力を養うライフキャリア教育を推進し、子どもたちの生きる力の育成を図る。また、ライフキャリア教育に市外の若者が関わる機会をつくることで、「若者がチャレンジできる益田」のイメージ定着を図る。								
事業検証 (R6)		【現状】	益田版・職場体験の参加事業所数について、過去に受入実績のある200を超える事業所に受入希望調査を実施したところ、約150事業所から受入れの申込みがあったが、中学校からの希望職種の申し出に対応した結果、140事業所での実施となった。				R6に対する自己評価	現状把握	B	
		【課題】	受入事業所の新規開拓が十分できておらず、受入れ事業所の固定化が懸念される。					課題把握	B	
		【対策】	引き続き、益田商工会議所や美濃商工会、益鹿雇用促進協議会と協働し、ライフキャリア教育に関わる事業所を増やす取組を展開する。また、益田市未来の担い手育成コンソーシアムの活動を推進し、ライフキャリア教育に関わる事業所を増やす。					対応策検討	B	
積算根拠 (R6)		<<事業概要>> ①小中高生ライフキャリア教育推進事業業務委託、ロールモデル接続事業業務委託の実施（プロポーザル） ②教育魅力化コーディネーター事業業務委託の実施（プロポーザル） ③JFAこころのプロジェクト「夢の教室」の実施 <<積算根拠（主なもの）>> ①16,498,000円 ②300,000円×12月=3,600,000円 ③2,300,000円 ほか							費用対効果	B
事業費 (単位:千円)			前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費	22,658	22,697	22,697	22,697	22,697	22,697	22,697	
		国庫支出金	5,764							
		県支出金	3,500	3,500						
		地方債 (10万円単位で積算)								
		その他	13,394	19,197	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	
	うち ふるさと応援基金	5,394								
	うち 地域振興基金		14,197							
	一般財源			17,697	17,697	17,697	17,697	17,697		
財源説明		県：コンソーシアム運営マネージャー配置費補助金／その他：地方創生応援税制寄付金								

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
------------------	--------------

総合戦略事業シート					【資料2】	No.	①		
評価対象事業分類	(1) 目標指標達成根拠事業								
具体事業	事業整理番号		事業名称	ひとづくり推進事業費					
施策体系	横断・基本目標	VI. 人と人がつながり、支え合うまち		総合戦略	戦略体系	基本戦略3_益田に回帰・流入・定着するひとの流れをつくる			
	基本施策	4. 移住・定住の促進			主要施策	(2) ふるさと教育・ライフキャリア教育による人材育成			
	具体施策	①U・Iターンの支援			担当部署	教育委員会ひとづくり推進課			
進捗管理	目標指標	「将来益田に住みたい」と答えた新成人の割合							
		R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
	目標 実績	単年						80	93.3%
事業概要	「益田市ひとづくり協働構想」に基づき、多様な人との対話によるロールモデルとの出会いや、生き様・価値観に触れることで、自分の人生を能動的に生きていくことができる力を養うライフキャリア教育を推進し、子どもたちの生きる力の育成を図る。また、ライフキャリア教育に市外の若者が関わる機会をつくることで、「若者がチャレンジできる益田」のイメージ定着を図る。								
事業検証 (R6)	【現状】	同数値は成人式参加者を対象に調査。対象者はライフキャリア教育プログラムを受けた世代。前年度を上回る結果となった。					R6 に対する 自己評価	現状把握	B
	【課題】	高校卒業後、成人式を迎えるまでは帰郷の意識が高いと考えられるが、その後、就職先の地域として益田市が選択されていない状況が伺える。						課題把握	B
	【対策】	「一度は益田を出ても、将来益田に帰ってきたい」という意識を高校卒業後も保ち続けられるように「若者還流・定着推進事業」を活用し、益田市との関係性を薄れさせない取組を展開する。						対応策検討	A
積算根拠 (R6)	<<事業概要>> ①小中高生ライフキャリア教育推進事業業務委託、ロールモデル接続事業業務委託の実施（プロポーザル） ②教育魅力化コーディネーター事業業務委託の実施（プロポーザル） ③JFAこころのプロジェクト「夢の教室」の実施 <<積算根拠（主なもの）>> ①16,498,000円 ②300,000円×12月=3,600,000円 ③2,300,000円 ほか					費用対効果	B		
事業費 (単位:千円)		前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
	総事業費	22,658	22,697	22,697	22,697	22,697	22,697	22,697	
	国庫支出金	5,764							
	県支出金	3,500	3,500						
	地方債(10万円単位で積算)								
	その他	13,394	19,197	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	
うち ふるさと応援基金	5,394								
うち 地域振興基金		14,197							
一般財源			17,697	17,697	17,697	17,697	17,697		
財源説明	県：コンソーシアム運営マネージャー配置費補助金／その他：地方創生応援税制寄付金								

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
---------------------	--------------

令和6年度企業版ふるさと納税活用事業実績【資料2 ②】

事業名	益田市・まち・ひと・しごと創生推進事業 (市内高校連携推進事業)
事業費	4,000,000円
取組内容	<p><b>【市内4高校の特色を活かした高校魅力化の取組】</b></p> <p>①高度理数系人材育成支援業務委託 (受託者：益田高等学校) 1) 「益田さいえんすたうん」(小中学生向け実験教室) 2) 「サイエンスキャンプ」(大学教員による中学生向け実験教室) 3) 出前実験・理科読を楽しむ会(小学生向け実験教室)</p> <p>②農業・モノづくり人材育成業務委託 (受託者：益田翔陽高等学校) 1) GAP米(田植え・稲刈り)体験など「産業の魅力発信」 2) 「地産・地消の推進」を目的とした農産物・加工品の地域販売実習など 3) 農業機械整備実技指導など「地域連携による技術実証及び技術活用」 4) 林業作業体験など「体験・交流による地元就職意識向上の取組」</p> <p>③私立高等学校魅力化活動補助金 益田市の私立高校において、地域活動や地域住民との交流を実施することで、益田市と関わり続ける人材(関係人口)の確保につながった。</p> <p>(益田東高等学校) 小中学生との交流機会(男女サッカー)の創出を目的とした施設整備を実施した。年間96回(月・火・水曜日の夜間と土曜日の午前)の合同練習を通じて市内小中学生との交流が図られた。</p> <p>(明誠高等学校) 通信課程の生徒を対象にスタディツアーを実施し、参加できなかった生徒に対する情報共有等も実施した。参加された生徒に対し、市内の自然、文化、歴史を体験でできる取組を実施する中で、地域の方々との交流も図られた。</p>
成果	<p><b>【市内4高校の特色を活かした高校魅力化の取組】</b></p> <p>①高度理数系人材育成支援業務委託：3事業 若者(保小中高)参加数(延べ数)1,240人</p> <p>②農業・モノづくり人材育成業務委託 若者(保小中高)参加数(延べ数)746人 1) 産業の魅力発信：10事業(14回) 2) 地産地消推進：1事業(4回) 3) 地域連携による技術実証及び技術活用：3事業(3回) 4) 体験・交流による地元就職意識向上：9事業(10回)</p> <p>③私立高等学校魅力化活動補助金：2事業 1) 益田東高等学校 若者(保小中高)参加数(延べ数)5,644人 2) 明誠高等学校 若者(保小中高)参加数(延べ数)652人</p>
今後の事業展開	<p>中高一貫教育に接続する取組の一つとし、引き続き、市内の高校の魅力化に資する取組に対する支援を行い、未来を担う子どもたちの育成を図るとともに、卒業後も益田市と関わり続ける人材のさらなる増加につなげる。</p>
外部有識者による評価(ご意見)	<p>別紙「審議結果」のとおり</p>

総合戦略事業シート				【資料2】		No.	②			
評価対象事業分類		(1) 目標指標達成根拠事業								
具体事業		事業整理番号		事業名称	市内高校連携推進事業費					
施策体系	横断・基本目標	社会変化に対応できる持続可能なまち		総合戦略	戦略体系	横断戦略_社会変化に対応できる持続可能なまちをつくる				
	基本施策	1. 次代を担う人材の育成・確保の推進			主要施策	(1) 次代を担う人材の育成・確保の推進				
	具体施策	①将来の益田市を担う人材育成の推進		担当部署	教育委員会ひとづくり推進課					
進捗管理	目標指標	～R5: 益田市で地域活動をした県外の若者の延べ人数(上段)と満足度(下段) R6～: 益田市で地域活動をした若者の延べ人数(上段)と満足度(下段)								
		R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率	
	目標	単年						～R5:300人 R6～:750人 80%	1104.3% 115.6%	
	実績	269人 —	221人 —	225人 88.5%	64人 80.0%	253人 82.1%	8,282人 92.5%			
事業概要		<b>【事業目的】</b> 中高一貫教育に接続する取組として、市内の高校の魅力化に資する取組について支援を行うことにより、子どもたちの卒業後の選択肢を増やし、未来を担う子どもたちの育成を図る。 <b>【事業概要】</b> 市内4高校の魅力化を目的とした委託事業及び補助事業を実施した								
事業検証(R6)		【現状】	同数値は農業・モノづくり人材育成業務委託事業、高度理数系人材育成支援業務委託事業、私立高等学校魅力化活動補助金を活用する市内4高校の事業へ参加された、高校生、及び小・中学生の人数(延べ数)をカウント。事業の主旨に鑑み、地域住民との交流活動創出を促したことで、小・中学生を中心に地域住民との交流が生まれた。					R6に対する自己評価	現状把握	B
	【課題】	人数は大きく増加し交流も行えたが、さらに多くの子どもたちが卒業後も益田市と関わり続けてもらうことにつながる内容となるよう働きかけや支援していくこと。					課題把握		B	
	【対策】	今後さらに高校生と地域住民とが深く関わるができる交流活動創出につながるような委託料、補助金活用について、市内各高校に働きかけ支援していく。					対応策検討		B	
積算根拠(R6)		○委託料 農業・モノづくり人材育成業務(翔陽高校)1,000千円 高度理数系人材育成支援業務(益田高校)1,000千円 ○負担金補助及び交付金 私立高校魅力化補助金(明誠高校、益田東高校)2,000千円					費用対効果	B		
事業費(単位:千円)			前年度(実績)	今年度(予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
	総事業費		4,000	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	
	国庫支出金		636							
	県支出金									
	地方債(10万円単位で積算)									
	その他		3,364	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	
	うち ふるさと応援基金		1,364	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	
	うち 地域振興基金									
	一般財源									
財源説明		その他: 地方創生応援税制寄付金								

【評価】

外部有識者による評価(ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
-----------------	--------------

総合戦略事業シート					【資料2】		No.	③		
評価対象事業分類		(1) 目標指標達成根拠事業		(2) 新規・拡充事業						
具体事業		事業整理番号	事業名称		未来の担い手育成事業費					
施策体系	横断・基本目標	I. 子育てにやさしく、誰もが健やかに暮らせるまち			総合戦略	戦略体系	基本戦略2_結婚・出産・子育ての希望をかなえる			
	基本施策	1. 結婚・出産・子育ての支援				主要施策	(3) 子育てや教育を支える人材の育成			
	具体施策	②地域ぐるみの子育て支援の推進と学びや活動の場の創出			担当部署	教育委員会ひとづくり推進課				
進捗管理		目標指標	つろうて子育て協議会実施回数							
			R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標 実績	単年						500	280.6%
事業概要		子どもたちを取り巻く環境の変化に伴い、教育に求められるものも変化している。こうした中、子どもたちの生き抜く力を育てるためには、学校だけで教育を担うのではなく地域総がかりで子どもを育てる必要があり、これらをコーディネートする専門人材の配置及び地域団体の活動を支援する。 また、この取り組みを持続可能とするため、関わる大人の学びと繋がりづくりを推進する。								
事業検証 (R6)		【現状】	つろうて子育て協議会が公民館や地域自治組織等と連携し、野外体験活動や放課後・長期休暇を活用した地域交流など多世代の交流活動が盛んに実施された。				R6に対する自己評価	現状把握	B	
		【課題】	地域によって活動の濃淡がある。また、活動内容や活動団体の固定化が見られる。					課題把握	B	
		【対策】	引き続きつろうて子育て協議会・公民館・地域自治組織の連携強化を図るとともに、各イベントのスケジュールや体制の管理を行い、熟議を促していく。					対応策検討	A	
積算根拠 (R6)		<<事業概要>> ①夏フェスの開催 ②社会教育コーディネーターの配置 ③地域活動づくり業務（各地区つろうて子育て協議会への委託）、ふるさと教育等の補助金交付 ④ボランティアハウスの運営（ボランティアハウス協議会への委託） <<積算根拠（主なもの）>> ①講師謝礼67,000円、需用費150,000円、委託料825,000円、会場使用料386,000円他＝1,474,000円 ②15,600,000円 ③つろうて1,400,000円＋ふるさと1,680,000円＝3,080,000円 ④5,499,840円 ほか							費用対効果	B
事業費 (単位:千円)			前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費	29,386	38,900	38,900	38,900	38,900	38,900	38,900	
		国庫支出金	7,144	12,600						
		県支出金	9,422	9,783	9,783	9,783	9,783	9,783	9,783	
		地方債(10万円単位で積算)	0							
		その他	12,850	16,517						
	うち ふるさと応援基金	12,510	16,517							
	うち 地域振興基金									
一般財源			29,117	29,117	29,117	29,117	29,117			
財源説明		国：新しい地方経済・生活環境創生交付金／県：ふるさと教育推進事業交付金、しまねすくすく子育て支援事業費交付金、結集しまねの子育て協働プロジェクト事業費補助金								

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
------------------	--------------

総合戦略事業シート					【資料2】		No.	③			
評価対象事業分類		(1) 目標指標達成根拠事業		(2) 新規・拡充事業							
具体事業		mira		事業名称		未来の担い手育成事業費					
施策体系	横断・基本目標	II. ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち			総合戦略	戦略体系	基本戦略2_結婚・出産・子育ての希望をかなえる				
	基本施策	1. 次代を担う人を育てる教育環境の充実				主要施策	(2) 学力の育成や教育環境の整備・魅力化の推進				
	具体施策	①地域ぐるみでの教育推進			担当部署	教育委員会ひとづくり推進課					
進捗管理		目標指標		学校の学びを地域活動に活かす取り組みの実施地区数							
				R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標	単年	/						20	100.0%
実績	単年	10	7	20	20	20	20				
事業概要		子どもたちを取り巻く環境の変化に伴い、教育に求められるものも変化している。こうした中、子どもたちの生き抜く力を育てるためには、学校だけで教育を担うのではなく地域総がかりで子どもを育てる必要があり、これらをコーディネートする専門人材の配置及び地域団体の活動を支援する。また、この取り組みを持続可能とするため、関わる大人の学びと繋がりづくりを推進する。									
事業検証 (R6)		【現状】	公民館や社会教育コーディネーターの取組により、地域を活動拠点とした長期休暇における体験教室や交流事業など、市内全域で学校の学びを地域活動に活かす取組が実施できた。				R6 に対する 自己評価	現状把握	B		
		【課題】	ライフキャリア教育プログラムに関わる大人・団体が固定化されつつある。また、個々のプログラム実施で終わるものが多いことから、より効果的な取組を目指して、他プログラムとの連動や接続について検討する必要がある。					課題把握	B		
		【対策】	関わる大人を増やすとともに、活動の中心となる人材の育成を図る。また、既存のプログラムの質向上や他事業との接続など、子どもたちの生きる力の育成や人材の還流、持続可能な地域づくりに効果的な事業展開について検討する。					対応策検討	B		
積算根拠 (R6)		<<事業概要>> ①夏フェスの開催 ②社会教育コーディネーターの配置 ③地域活動づくり業務（各地区つろうて子育て協議会への委託）、ふるさと教育等の補助金交付 ④ボランティアハウスの運営（ボランティアハウス協議会への委託） <<積算根拠（主なもの）>> ①講師謝礼67,000円、需用費150,000円、委託料825,000円、会場使用料386,000円他＝1,474,000円 ②15,600,000円 ③つろうて1,400,000円＋ふるさと1,680,000円＝3,080,000円 ④5,499,840円 ほか							費用対効果	B	
事業費 (単位:千円)				前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
				R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費		29,386	38,900	38,900	38,900	38,900	38,900	38,900	
		国庫支出金		7,144	12,600						
		県支出金		9,422	9,783	9,783	9,783	9,783	9,783	9,783	
		地方債(10万円単位で積算)		0							
		その他		12,850	16,517						
		うち ふるさと応援基金	12,510	16,517							
		うち 地域振興基金									
一般財源				29,117	29,117	29,117	29,117	29,117			
財源説明		国：新しい地方経済・生活環境創生交付金／県：ふるさと教育推進事業交付金、しまねすくすく子育て支援事業費交付金、結集しまねの子育て協働プロジェクト事業費補助金									

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
------------------	--------------

総合戦略事業シート					【資料2】		No.	③		
評価対象事業分類		(1) 目標指標達成根拠事業		(2) 新規・拡充事業						
具体事業		事業整理番号	事業名称		未来の担い手育成事業費					
施策体系	横断・基本目標	VI. 人と人がつながり、支え合うまち			総合戦略	戦略体系	基本戦略3_益田に回帰・流入・定着するひとの流れをつくる			
	基本施策	4. 移住・定住の促進				主要施策	(2) ふるさと教育・ライフキャリア教育による人材育成			
	具体施策	①U・Iターンの支援				担当部署	教育委員会ひとづくり推進課			
進捗管理		目標指標	「将来益田に住みたい」と答えた新成人の割合							
			R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標 実績	単年	69	76.9	72.9	80.9	71.6	74.6	80
事業概要		子どもたちを取り巻く環境の変化に伴い、教育に求められるものも変化している。こうした中、子どもたちの生き抜く力を育てるためには、学校だけで教育を担うのではなく地域総がかりで子どもを育てる必要があり、これらをコーディネートする専門人材の配置及び地域団体の活動を支援する。また、この取り組みを持続可能とするため、関わる大人の学びと繋がりづくりを推進する。								
事業検証 (R6)		【現状】	同数値は成人式参加者を対象に調査。対象者はライフキャリア教育プログラムを受けた世代。前年度を上回る結果となった。				R6に対する自己評価	現状把握	A	
		【課題】	高校卒業後、成人式を迎えるまでは帰郷の意識が高いと考えられるが、その後、就職先の地域として益田市が選択されていない状況が伺える。					課題把握	B	
		【対策】	「一度は益田を出ても、将来益田に帰ってきたい」という意識を高校卒業後も保ち続けられるように「若者還流・定着推進事業」を活用し、益田市との関係性を薄れさせない取組を展開する。					対応策検討	A	
積算根拠 (R6)		<<事業概要>> ①夏フェスの開催 ②社会教育コーディネーターの配置 ③地域活動づくり業務（各地区つろうて子育て協議会への委託）、ふるさと教育等の補助金交付 ④ボランティアハウスの運営（ボランティアハウス協議会への委託） <<積算根拠（主なもの）>> ①講師謝礼67,000円、需用費150,000円、委託料825,000円、会場使用料386,000円他＝1,474,000円 ②15,600,000円 ③つろうて1,400,000円＋ふるさと1,680,000円＝3,080,000円 ④5,499,840円 ほか							費用対効果	B
事業費 (単位:千円)			前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費	29,386	38,900	38,900	38,900	38,900	38,900	38,900	
		国庫支出金	7,144	12,600						
		県支出金	9,422	9,783	9,783	9,783	9,783	9,783	9,783	
		地方債(10万円単位で積算)	0							
		その他	12,850	16,517						
	うち ふるさと応援基金	12,510	16,517							
	うち 地域振興基金									
一般財源			29,117	29,117	29,117	29,117	29,117			
財源説明		国：新しい地方経済・生活環境創生交付金／県：ふるさと教育推進事業交付金、しまねすくすく子育て支援事業費交付金、結集しまねの子育て協働プロジェクト事業費補助金								

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
------------------	--------------

総合戦略事業シート					【資料2】		No.	④		
評価対象事業分類		(1) 目標指標達成根拠事業								
具体事業		事業整理番号	事業名称		公民館管理・拠点化推進事業費					
施策体系	横断・基本目標	Ⅱ. ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち			総合戦略	戦略体系				
	基本施策	2. 地域・世代を越えた学習機会の創出				主要施策				
	具体施策	③社会教育の推進と活動拠点づくり			担当部署	教育委員会ひとづくり推進課				
進捗管理		目標指標	公民館活動の参加者(うち、高校生以下の数)							
			R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標 単年							142,000 (24,708)	90.4%
		実績	141,582 (18,691)	71,579 (12,427)	73,021 (12,620)	97,386 (15,056)	120,442 (18,632)	128,419 (19,034)		77.0%
事業概要		公民館は地域における社会教育活動の拠点であり、職員配置を行うほか、公民館活動を推進すること及び施設の維持管理を行うことによって、公民館が持つ機能を最大限に発揮するための環境を整備し、持続可能なひとづくり・地域づくりの実現につなげる。								
事業検証(R6)		【現状】	昨年度と比較して、公民館の事業数が11,783から11,937回に増加しており、それに伴って参加者数も増加している。R6年に益田市公民館職員研修プログラム実施要項を定めことで、計画的な研修への取り組み、職員の資質向上にもつながっている。地域づくり・ひとづくりの拠点である公民館の機能強化に寄与したものと考えられる。				R6に対する自己評価	現状把握	B	
		【課題】	公民館職員の研修については、益田市公民館職員研修プログラム実施要綱を策定したことで、研修への参加意識の向上に繋げることが出来ている。この取り組みを継続するとともに、現場のニーズに沿った研修の充実を図る必要がある。					課題把握	B	
		【対策】	市独自の研修の他、島根県社会教育研修センター等が実施する研修も活用しながら、経験年数に応じて必要な研修を履修できるよう計画する。また、公民館活動の参加者、特に高校生以下の参加者を増やすためには、多世代や団体をつなぐコーディネート力や企画立案力が不可欠であり、そうした研修への積極的な参加を促す。					対応策検討	B	
積算根拠(R6)		報酬137,513千円/職員手当等47,856千円/共済費25,307千円/旅費1,863千円/需用費20,030千円/役務費3,136千円/委託料6,448千円/使用料及び賃借料14,761千円/工事請負費964千円/負担金補助及び交付金8,898千円							費用対効果	B
事業費 (単位:千円)			前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費	266,776	270,864	270,864	270,864	270,864	270,864	270,864	
		国庫支出金	150							
		県支出金	300							
		地方債(10万円単位で積算)	500							
		その他	2,753	2,796	2,796	2,796	2,796	2,796	2,796	
うち ふるさと応援基金										
うち 地域振興基金										
一般財源	263,073	268,068	268,068	268,068	268,068	268,068	268,068			
財源説明		その他：地域活性化交流館使用料、自動販売機取扱手数料、公民館利用料								

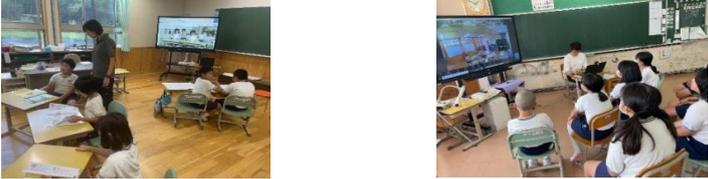
【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
---------------------	--------------

令和6年度企業版ふるさと納税活用事業実績【資料2 ⑤】

<p>事業名</p>	<p>益田市・まち・ひと・しごと創生推進事業 (学校教具・遊具更新事業)</p>
<p>事業費</p>	<p>9,156,400円</p>
<p>取組内容</p>	<p>教具・遊具の老朽化を踏まえ、児童の教育環境の充実を図るべく児童数等を考慮して、必要に応じた教具等の更新を図る。 【令和6年度設置状況】 ①設置校数：5校（益田小、吉田小、吉田南小、安田小、都茂小） ②設置器具：滑り台3基・ジャングルジム3基</p> <div data-bbox="384 555 655 667" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>滑り台の利用状況 (吉田小)</p> </div>  <div data-bbox="384 947 655 1099" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ジャングルジムの利用状況 (安田小)</p> </div> 
<p>成果</p>	<p>本市においては、地域全体で子どもたちの育ちを支えていく「学校を核とした地域づくり」を進めており、学校の授業だけではなく、放課後などにおいても地域の方々とのおいあいの場を創出できるように教具や遊具を設置することで、児童の運動機能の向上と心身の健やかな成長を期待する。</p>
<p>今後の事業展開</p>	<p>設置予定校数：(小学校)3校 教具：5カ所・遊具：2カ所</p>
<p>外部有識者による評価 (ご意見)</p>	<p>別紙「審議結果」のとおり</p>

令和6年度企業版ふるさと納税活用事業実績【資料2 ⑥】

<p>事業名</p>	<p>益田市・まち・ひと・しごと創生推進事業 (小規模校合同学習実施事業)</p>
<p>事業費</p>	<p>1,000,000円</p>
<p>取組内容</p>	<p>【小規模校合同スポーツ交流会】 小規模校6校合同のスポーツ交流会を開催し、自校だけでは経験できない団体競技(バスケットボール)に取り組んだ。</p>  <p>【小規模校合同少年自然の家宿泊研修】 真砂小・豊川小・桂平小・匹見小の4校合同で、少年自然の家で宿泊研修を実施した。</p>  <p>【小規模校オンライン交流】 小規模校6校で、オンラインを活用した授業や交流学习を実施し、互いの成果を確認しあったり、多様な意見に触れたりする活動を実施した。</p> 
<p>成果</p>	<p>小規模校の中では体験できない団体競技(バスケットボール)を通して、競技を楽しむ中で競い合い励まし合いながら、学校の枠を越えた人間関係の広がりも見えた。宿泊体験学修では、寝食を共にすることで、更に交流の輪を広げた。オンライン交流では、日頃関わっている人間関係を越えた交流はもちろん、他校の児童の多様な意見に触れることで、気付きや学びを広げ深めることにつながった。 全国学力学習状況調査における「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」の問の肯定的回答が66%であった。</p>
<p>今後の事業展開</p>	<p>本事業の継続により、小規模校6校の児童同士の学習や交流を進める中で、自己肯定感や挑戦する気持ちを高めるとともに、学びに向かう児童を育成する。サッカー交流会、バスケットボール交流会をはじめとしたスポーツ交流や、日々の学習での実際の交流やオンライン交流、オンライン学習を継続して取り組みながら、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」の肯定的回答を増やす。</p>
<p>外部有識者による評価(ご意見)</p>	<p>別紙「審議結果」のとおり</p>

令和6年度企業版ふるさと納税活用事業実績【資料2 ⑦】

事業名	益田市・まち・ひと・しごと創生推進事業 (中高連携学力育成推進事業)
事業費	4,834,722円
取組内容	<p>■事業概要 市内児童生徒の主体的学びの定着及び学力育成を推進し、高等学校卒業後の選択肢の充実を図るため、市内高等学校と連携し、高等学校教諭などが小中学生を指導することで学力の育成を図るとともに、中学生が主体的に学習に取り組む意識を醸成する。</p> <p>■主な取組</p> <p>①【新規】小学校高学年の平日夜間における学力育成に資する取組 内容：英会話（定員25名）</p> <p>②【継続】中学生の平日夜間における学力育成に資する取組 内容：英語、数学（各定員30名）</p> <p>③【継続】中学生の休日における学力育成に資する取組 内容：英語及び数学など（定員30名）</p> <p>④【継続】自ら学びに向かうための「学びの楽しさ」の意識醸成等 内容：「学びの楽しさ～『なぜ』から広がる可能性」講師：河合塾講師 「学びを通じて自分らしく輝く！」講師：井手上 漠</p>
成果	<p>・「自ら進んで学習する意識が高まった割合80%以上」という目標に対し、実績81.6%。</p> <p>・個人で設定した学力向上に係る目標に対する達成度100%という目標に対し、実績48.3%。</p> <p>中学生の前年度からの継続率は67%であり、一定の評価を得ている。全体的に、「勉強しなければいけないと思っているが、家庭では勉強できていない」という受講生が多い中、約57%の受講生が家庭での学習時間が増えたと回答している。学力向上に結びつくには至っていない者も多いが、「自ら学びに向かう意識の醸成」に継続して取り組みたい。</p>
今後の事業展開	<p>令和7年度において、継続して事業実施し、以下の内容に取り組む。</p> <p>①【継続】小学校高学年の平日夜間における学力育成に資する取組 内容：英語</p> <p>②【継続】中学生の平日夜間における学力育成に資する取組 内容：英語、数学</p> <p>③【継続】中学生の休日における学力育成に資する取組 内容：英語、数学</p> <p>④【新規】長期休業期間中における英語講座 内容：英会話（小学生）、英会話・英語（中学生）</p> <p>⑤【継続】自ら学びに向かうための「学びの楽しさ」の意識醸成等 内容：講演会2回</p>
外部有識者による評価（ご意見）	別紙「審議結果」のとおり

総合戦略事業シート					【資料2】		No.	⑦		
評価対象事業分類										
具体事業		事業整理番号	事業名称		中高連携学力育成推進事業					
施策体系	横断・基本目標	Ⅱ. ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち			総合戦略	戦略体系				
	基本施策	1. 次代を担う人を育てる教育環境の充実				主要施策				
	具体施策	⑧益田市型中高一貫教育の推進			担当部署	教育委員会学校教育課				
進捗管理		目標指標								
			R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標	単年							
実績		単年								
事業概要		市内児童生徒の主体的学びの定着及び学力育成を推進し、高等学校卒業後の選択肢の充実を図るため、市内高等学校と連携し、高等学校教諭などが小中学生を指導することで学力の育成を図るとともに、中学生が主体的に学習に取り組む意識を醸成する。								
事業検証 (R6)		【現状】	近年の全国学力・学習状況調査（対象：中3及び小6）や島根県学力調査（対象：中2・中1及び小6・小5）の調査結果では、市内の児童生徒の平均正答率は、全国平均や県平均を下回る傾向が示されている。				R6に対する自己評価	現状把握	A	
		【課題】	その要因の一つとして、主体的学びの定着が図られていないことにあると考えられる。					課題把握	A	
		【対策】	主体的学びの定着を図るため、児童生徒に「学びの楽しさ」や「わかる喜び」を感じてもらうことにより、自ら進んで学習する意識を高める。					対応策検討	A	
積算根拠 (R6)		業務委託料 4,834,722円					費用対効果	B		
事業費 (単位:千円)			前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費	4,835	5,540						
		国庫支出金	1,762							
		県支出金								
		地方債 (10万円単位で積算)								
		その他	3,073	5,540						
うち ふるさと応援基金	1,072	5,540								
うち 地域振興基金										
一般財源										
財源説明										

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
------------------	--------------

総合戦略事業シート					【資料2】		No.	⑧		
評価対象事業分類										
具体事業		事業整理番号	事業名称		理系人材育成協働事業					
施策体系	横断・基本目標	Ⅱ. ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち			総合戦略	戦略体系				
	基本施策	1. 次代を担う人を育てる教育環境の充実				主要施策				
	具体施策	⑧益田市型中高一貫教育の推進			担当部署	教育委員会学校教育課				
進捗管理		目標指標								
			R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標	単年							
実績										
事業概要		<p>長期休業中11日間、市内各所において小学校4年生（複式学級は3年も可）から中学校3年生の希望者を集めて、島根大学の学生を講師に迎え、算数・数学パワーアップ教室を行った。各長期休業中の宿題や教育委員会で用意した算数・数学プリントを、大学生に教わりながら解いていった。大学生の企画した活動を通して交流も図った。</p> <p>夏季休業：グラントワ・匹見  冬季休業：市民学習センター  学年末休業：市民学習センター</p>								
事業検証 (R6)		【現状】	R3年度から取り組んでいる事業。参加者数は口コミで増え、小中合わせて100名を超える参加者もあった。大学生も15名募集し、継続して応募する学生も複数いる。				R6に対する自己評価	現状把握	A	
		【課題】	児童生徒の参加者の増加に見合う大学生の参加者の確保ができていない。					課題把握	B	
		【対策】	島根大学と協議しながら、大学生の募集方法等を考えており、今年度は、島根大学教育学部の「1000時間体験学習」に位置づけることで学生の応募者数の増加を図る。					対応策検討	B	
積算根拠 (R6)		報償費 算数・数学パワーアップ教室講師謝礼 1,000,000円 旅費 算数・数学パワーアップ教室講師費用弁償 1,411,880円 需用費 229,762円 役務費 26,800円 使用料及び賃借料 バス借上料 1,521,710円 負担金補助及び交付金 地域交流に係る体験料 100,000円							費用対効果	B
事業費 (単位:千円)			前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費	4,291	3,900						
		国庫支出金	1,877	1,950						
		県支出金								
		地方債 (10万円単位で積算)								
		その他	2,414	1,950						
うち ふるさと応援基金	2,414	1,950								
うち 地域振興基金										
一般財源										
財源説明										

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
------------------	--------------

総合戦略事業シート						【資料2】	No.	⑨		
評価対象事業分類		(1) 目標指標達成根拠事業	(2) 新規・拡充事業	(3) ふるさと応援基金 充 当・地方債活用事業						
具体事業		事業整理番号	438	事業名称	産業振興推進事業費					
施策体系	横断・基本目標	Ⅲ. 産業・観光振興による活力のあるまち			総合戦略	戦略体系	基本戦略1_定住の基盤となるしごとをつくる			
	基本施策	3. 雇用・産業基盤の強化				主要施策	(3) 商工業などの活性化			
	具体施策	①既存企業の育成支援			担当部署	産業経済部産業支援センター				
進捗管理		目標指標	市内事業者数							
			R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標 実績	単年						2,395	97.5%
事業概要		益田市商工業振興会議を開催し意見等集約に努め、あわせて企業訪問等を通じたニーズの把握・課題解決を進め、新分野に挑戦する企業を支援する。 【事業内容】 ①益田市商工業振興会議の開催 ②商品開発等支援事業補助金やモニター調査モニター調査事業等により、商品開発や販路拡大等の新たな取組に挑戦する企業を支援する。 ③松江工業高等専門学校との連携協定を推進し、工作教室の開催や企業との交流を促進させる。								
事業検証 (R6)		【現状】	・商工業振興会議については、1回開催した。 ・商品開発等支援事業補助金については、のべ5件（うち商品開発1件、販路開拓4件）の支援を行った。 ・高専との連携では、工作教室参加者のべ80人、高専見学会、小規模校出前授業や高専生の企業見学等を実施した。				R6 に対する 自己評価	現状把握	B	
		【課題】	・商品開発等の新たな取組に挑戦する企業の掘り起しと継続的なフォローアップが必要と考える。					課題把握	B	
		【対策】	・支援機関による産業支援センター連絡会を通じて制度の周知による案件発掘、さらに支援体制の構築を図っている。 ・新規開発商品のふるさと納税返礼品への登録などに取組んでいる。					対応策検討	B	
積算根拠 (R6)		①益田市商工業振興会議経費（報酬、費用弁償等） 7,584円 ②商品開発等支援事業補助金 472,000円 ③モニター調査等事務費（旅費、需用費等） 419,901円 ④松江高専連携事業事務費（報償費、旅費等） 202,980円 ⑤松江高専連携事業委託料 1,500,000円							費用対効果	B
事業費 (単位:千円)			前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費	2,603	4,100	4,400	4,400	4,400	4,400		
		国庫支出金	552	0	0	0	0	0	0	
		県支出金								
		地方債 (10万円単位で積算)								
		その他	1,899	4,100	4,231	4,232	4,233	4,234	0	
		うち ふるさと応援基金 うち 地域振興基金	1,899	4,100	4,231	4,232	4,233	4,234		
一般財源	152	0	169	168	167	166	0			
財源説明		国庫支出金：デジタル田園都市国家構想交付金 その他：ふるさと応援基金繰入金 (R6～)								

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
------------------	--------------

総合戦略事業シート					【資料2】		No.	⑨		
評価対象事業分類		(1) 目標指標達成根拠事業	(2) 新規・拡充事業	(3) ふるさと応援基金 充 当・地方債活用事業						
具体事業		事業整理番号	438	事業名称	産業振興推進事業費					
施策体系	横断・基本目標	Ⅲ. 産業・観光振興による活力のあるまち			総合戦略	戦略体系	基本戦略1_定住の基盤となるしごとをつくる			
	基本施策	3. 雇用・産業基盤の強化				主要施策	(3) 商工業などの活性化			
	具体施策	①既存企業の育成支援			担当部署	産業経済部産業支援センター				
進捗管理		目標指標	市補助金活用等支援事業者件数							
			R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標 単年							8	62.5%
実績	-	4	7	3	9	5				
事業概要		益田市商工業振興会議を開催し意見等集約に努め、あわせて企業訪問等を通じたニーズの把握・課題解決を進め、新分野に挑戦する企業を支援する。 【事業内容】 ①益田市商工業振興会議の開催 ②商品開発等支援事業補助金やモニター調査モニター調査事業等により、商品開発や販路拡大等の新たな取組に挑戦する企業を支援する。 ③松江工業高等専門学校との連携協定を推進し、工作教室の開催や企業との交流を促進させる。								
事業検証 (R6)		【現状】	・商工業振興会議については、1回開催した。 ・商品開発等支援事業補助金については、のべ5件（うち商品開発1件、販路開拓4件）の支援を行った。 ・高専との連携では、工作教室参加者のべ80人、高専見学会、小規模校出前授業や高専生の企業見学等を実施した。				R6 に対する 自己評価	現状把握	B	
	【課題】	・商品開発等の新たな取組に挑戦する企業の掘り起しと継続的なフォローアップが必要と考える。				課題把握		B		
	【対策】	・支援機関による産業支援センター連絡会を通じて制度の周知による案件発掘、さらに支援体制の構築を図っている。 ・新規開発商品のふるさと納税返礼品への登録などに取組んでいる。				対応策検討		B		
積算根拠 (R6)		①益田市商工業振興会議経費（報酬、費用弁償等） 7,584円 ②商品開発等支援事業補助金 472,000円 ③モニター調査等事務費（旅費、需用費等） 419,901円 ④松江高専連携事業事務費（報償費、旅費等） 202,980円 ⑤松江高専連携事業委託料 1,500,000円							費用対効果	B
事業費 (単位:千円)			前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費	2,603	4,100	4,400	4,400	4,400	4,400		
		国庫支出金	552	0	0	0	0	0	0	
		県支出金								
		地方債 (10万円単位で積算)								
		その他	1,899	4,100	4,231	4,232	4,233	4,234	0	
		うち ふるさと応援基金 うち 地域振興基金	1,899	4,100	4,231	4,232	4,233	4,234		
一般財源	152	0	169	168	167	166	0			
財源説明		国庫支出金：デジタル田園都市国家構想交付金 その他：ふるさと応援基金繰入金 (R6～)								

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
------------------	--------------

令和6年度企業版ふるさと納税活用事業実績【資料2 ⑩】

<p>事業名</p>	<p>益田市・まち・ひと・しごと創成推進計画 (防災対策事務費)</p>
<p>事業費</p>	<p>1,449,062円</p>
<p>取組内容</p>	<p>【事業概要】 益田市地域防災計画（第17節災害対策資機材の備蓄・調達）に基づき、被災者等の生命維持に最低限必要な食料、飲料水、生活必需品、避難所資機材等を計画的に備蓄を行う事業</p>   <p>①益田市備蓄計画（備蓄品購入計画）による購入 (需用費) 備蓄食糧、飲料水、プライバシーテント、ワンタッチベッド 液体ミルク、女性用下着など</p>   <p>②災害に備えた分散備蓄の実施 各地区公民館（災害時優先避難所）への簡易ベッド等の配置</p>  <p>③企業版ふるさと納税（物納）を活用した通信インフラの強化 イリジウム衛星携帯電話 2台 通話プリペイドカード（4年分 2,400分）2枚 美都分庁舎、保健センターに1台ずつ配備</p> 
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害直後の生活維持や生活に最低限必要な物資や避難所資機材の整備</li> <li>・災害時要配慮者、男女双方の視点やアレルギー対応等に配慮した整備</li> <li>・市内公民館への分散備蓄</li> <li>・イリジウム衛星携帯電話分散配置による、非常時のインフラ強化</li> </ul>
<p>今後の事業展開</p>	<p>平常時における必要物資・資機材の整備を計画的に行い、災害時における迅速かつ確実な調達が可能な体制の確保</p>
<p>外部有識者による評価 (ご意見)</p>	<p>別紙「審議結果」のとおり</p>

令和6年度企業版ふるさと納税活用事業実績【資料2 ⑪】

<p>事業名</p>	<p>益田市・まち・ひと・しごと創生推進事業 (新たな「移住・定住」推進プロジェクト事業)</p>
<p>事業費</p>	<p>7,539,100円</p>
<p>取組内容</p>	<p>①情報発信の強化 益田で暮らしている人や活動している人取材し、その人たちの「想い」を発信している「MASUDA no Hito」ホームページ内に移住検討者向けに本市のライフキャリアの取組を紹介するサイトを開設した。サイトでは、市の紹介、お試し移住体験の募集、移住者・体験者の声などを掲載した。</p> <p>②交流の場の創出 1) 体験交流施設「ますだベース」を開設 空き家等を活用し、情報発信や多世代交流、移住検討者と住民との交流が可能な体験交流事業を実施。(Uターン者意見交換会、空き家バンク相談会、親子お試し移住体験の参加者とUターン者との交流の場の提供など)</p> <p>2) 益田市のライフキャリア教育を体験できる「親子お試し移住体験」の実施 ・1回目は豊川地区をモデル地域として計画。 ・2回目は地区を限定せず、1泊2日の移住体験を計画し実施。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>①情報発信サイト</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>②-1)ますだベースイベントの様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>②-2)お試し移住体験 ライフキャリア説明の様子</p> </div> </div>
<p>成果</p>	<p>①情報発信の強化 市の紹介やお試し移住体験の募集、移住者・体験者の声をサイトに掲載。あわせて、Instagramで有料広告を実施し、関東圏の子育て世代をターゲットに配信。16日間で726件の閲覧があった。</p> <p>②交流の場の創出 1) 体験交流施設「ますだベース」の活用 ・イベント(月1回)：11回開催 64名参加 ・シェアスペース：72回開設。152名利用(目標利用者数：120名) ・SNS情報発信：55回</p> <p>2) 「親子お試し移住体験」の実施 ・1回目は参加者がなかったため未実施となった。 ・2回目は地区を限定せず、1泊2日の移住体験を実施した。 日時：令和7年2月28日～3月1日 ⇒市外から1組(5名)が参加(目標参加者数：県外から5名) ※当初2組の申込あったが、1組は体調不良により不参加</p>
<p>今後の事業展開</p>	<p>交流の場の創出については、事業内容や周知方法を再検討し、益田に関心を持つ方々が参加しやすく、益田の魅力を実感できる効果的な取組としていきたい。 また、本事業は、単独で実施するのではなく、他の移住・定住にかかる取組と関連付けながら展開することで、より高い効果を目指す。</p>
<p>外部有識者による評価(ご意見)</p>	<p>別紙「審議結果」のとおり</p>

令和6年度企業版ふるさと納税活用事業実績【資料2 ⑫】

<p>事業名</p>	<p>益田市・まち・ひと・しごと創生推進事業 (サイクリストおもてなし事業)</p>
<p>事業費</p>	<p>1,486,020円</p>
<p>取組内容</p>	<p>【事業概要】 本市が誇る豊かな自然・良好なサイクリング環境を活かし、国内外から本市を訪れるサイクリストが安心して、かつ快適にサイクリングが楽しめる環境を整備し、本市の取り組みを県外イベント等でPRすることで新たなサイクリストを誘客し、交流人口の拡大を図ることを目的とする。</p> <p>【取り組み内容】 ○イベント出展（益田市のPR） ・4/6, 4/7 CYCLE MODE TOKYO 2024 ・3/1, 3/2 CYCLE MODE RIDE OSAKA 2025 ○パンフレット等印刷 ・サイクリングマップ ・100ZEROチラシ ○サイクリストサポート企業 ・登録 1件（全体113件） ○「自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区村の会」への参加 【企業版ふるさと納税活用】 ・レンタサイクルとして益田市観光協会に設置。 (寄贈いただいた物品の詳細) 電動アシスト付き自転車 (Daytona Mobility) DE01 (電動ミニベロ) 6台、DE04 (電動ファット) 2台</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>成果</p>	<p>○首都圏・関西圏の自転車関連イベントにおける本市の認知度 (第6次総合振興計画目標：R7首都圏40%関西圏60%) 首都圏47.9% 関西圏50.7% (R6年度)</p> <p>○企業版ふるさと納税活用実績 ・38件 (全体574件) ※R5年度 567件</p>
<p>今後の事業展開</p>	<p>○イベント出展 ・6/29ツール・ドしものせき2025出展 ※近隣県での益田市の認知度調査や集客を目指すため。 ・3月CYCLE MODE RIDE OSAKA 2026</p> <p>○道路案内サイン、ブルーライン修繕</p> <p>○サイクルスタンド作製 (5基)</p>
<p>外部有識者による評価 (ご意見)</p>	<p>別紙「審議結果」のとおり</p>

総合戦略事業シート					【資料2】		No.	⑬		
評価対象事業分類		(1) 目標指標達成根拠事業			(3) ふるさと応援基金 充当・地方債活用事業					
具体事業		事業整理番号	465	事業名称	歴史文化交流館管理運営経費					
施策体系	横断・基本目標	Ⅲ. 産業・観光振興による活力のあるまち			総合戦略	戦略体系	基本戦略1_定住の基盤となるしごとをつくる			
	基本施策	5. 戦略的な観光の推進				主要施策	(4) 戦略的な観光の推進			
	具体施策	①観光地域づくりの推進			担当部署	産業経済部観光交流課				
進捗管理		目標指標	歴史文化交流館の来場者数							
			R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標	/						6,500	162.0%
実績	/						7,836	10,531		
事業概要		令和6年4月に開館した歴史文化交流館の指定管理を委託し、施設の維持管理・運営を行い、観光周遊拠点として多くの観光客を迎え入れるとともに、市民を始めとする来場者の交流活動を生み出す。								
事業検証 (R6)		【現状】	指定管理者と連携し、入館者数の増と、日本遺産を中心とした観光周遊拠点としての機能を果たせるよう定期的な集客イベントを開催した。				R6に対する自己評価	現状把握	B	
		【課題】	集客イベントの開催により、来館者数の目標は達成しているが、平日開館日の来館者数は伸び悩んでいる。					課題把握	B	
		【対策】	案内標識の設置 (R6) 引き続き、指定管理者と連携し、集客に取り組む。また、グラントワの企画展等と連動したイベント開催についても継続したい。					対応策検討	C	
積算根拠 (R6)		<ul style="list-style-type: none"> <li>●展示ルーム修繕等 717千円</li> <li>●火災保険料 9千円</li> <li>●指定管理料 17,122千円</li> <li>●案内標識設置工事、防犯灯設置工事、監視カメラシステム設置工事1,273千円</li> </ul>					費用対効果	B		
事業費 (単位:千円)			前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費	19,121	17,490	17,131	17,131	17,131	17,131	17,131	
		国庫支出金								
		県支出金								
		地方債 (10万円単位で積算)								
		その他	1,273	200	200	200	200	200	200	
うち ふるさと応援基金	1,273									
うち 地域振興基金										
一般財源	17,848	17,290	16,931	16,931	16,931	16,931	16,931			
財源説明		R7~200千円 (歴史文化交流館企画展示観覧料)								

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
------------------	--------------

総合戦略事業シート						【資料2】	No.	⑬	
評価対象事業分類	(1) 目標指標達成根拠事業			(3) ふるさと応援基金 充当・地方債活用事業					
具体事業	事業整理番号	465	事業名称	歴史文化交流館管理運営経費					
施策体系	横断・基本目標	Ⅲ. 産業・観光振興による活力のあるまち			総合戦略	戦略体系	基本戦略1_定住の基盤となるしごとをつくる		
	基本施策	5. 戦略的な観光の推進				主要施策	(4) 戦略的な観光の推進		
	具体施策	①観光地域づくりの推進			担当部署	産業経済部観光交流課			
進捗管理	目標指標	歴史文化交流館の収益事業による収益額							
		R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
	目標 実績	単年						8,882,000	7.71%
事業概要	令和6年4月に開館した歴史文化交流館の指定管理を委託し、施設の維持管理・運営を行い、観光周遊拠点として多くの観光客を迎え入れるとともに、市民を始めとする来場者の交流活動を生み出す。								
事業検証 (R6)	【現状】	指定管理者と連携し、入館者数の増と、日本遺産を中心とした観光周遊拠点としての機能を果たせるよう定期的な集客イベントを開催した。					R6 に対する 自己評価	現状把握	B
	【課題】	集客イベントの開催により、来館者数の目標は達成しているが、平日開館日の来館者数は伸び悩んでいる。収益額については、設計当初は施設内に「喫茶スペース」を設ける計画（設置なし）となっており、目標額と大きく乖離している。						課題把握	B
	【対策】	案内標識の設置（R6）引き続き、指定管理者と連携し、集客に取り組む。また、グラントワの企画展等と連動したイベント開催についても継続したい。						対応策検討	C
積算根拠 (R6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●展示ルーム修繕等 717千円</li> <li>●火災保険料 9千円</li> <li>●指定管理料 17,122千円</li> <li>●案内標識設置工事、防犯灯設置工事、監視カメラシステム設置工事1,273千円</li> </ul>						費用対効果	B	
事業費 (単位:千円)		前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
	総事業費	19,121	17,490	17,131	17,131	17,131	17,131	17,131	
	国庫支出金								
	県支出金								
	地方債(10万円単位で積算)								
	その他	1,273	200	200	200	200	200	200	
うち ふるさと応援基金 うち 地域振興基金	1,273								
一般財源	17,848	17,290	16,931	16,931	16,931	16,931	16,931		
財源説明	R7～200千円（歴史文化交流館企画展示観覧料）								

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
---------------------	--------------

総合戦略事業シート					【資料2】		No.	⑬		
評価対象事業分類		(1) 目標指標達成根拠事業			(3) ふるさと応援基金 充 当・地方債活用事業					
具体事業		事業整理番号	465	事業名称	歴史文化交流館管理運営経費					
施策体系	横断・基本目標	Ⅲ. 産業・観光振興による活力のあるまち			総合戦略	戦略体系	基本戦略1_定住の基盤となるしごと			
	基本施策	5. 戦略的な観光の推進				主要施策	(4) 戦略的な観光の推進			
	具体施策	①観光地域づくりの推進			担当部署	産業経済部観光交流課				
進捗管理		目標指標	交流活動ルームで創出された観光体験コンテンツ数							
			R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標	/						6	133.3%
実績	/						0	8		
事業概要		令和6年4月に開館した歴史文化交流館の指定管理を委託し、施設の維持管理・運営を行い、観光周遊拠点として多くの観光客を迎え入れるとともに、市民を始めとする来場者の交流活動を生み出す。								
事業検証 (R6)		【現状】	指定管理者と連携し、入館者数の増と、日本遺産を中心とした観光周遊拠点としての機能を果たせるよう定期的な集客イベントを開催した。				R6 に対する 自己評価	現状把握	B	
		【課題】	集客イベントの開催により、来館者数の目標は達成しているが、平日開館日の来館者数は伸び悩んでいる。継続性のあるコンテンツ開発が難しい。					課題把握	B	
		【対策】	案内標識の設置 (R6) 引き続き、指定管理者と連携し、コンテンツ開発を行う。 定期的なミーティングの開催。					対応策検討	C	
積算根拠 (R6)		<ul style="list-style-type: none"> <li>●展示ルーム修繕等 717千円</li> <li>●火災保険料 9千円</li> <li>●指定管理料 17,122千円</li> <li>●案内標識設置工事、防犯灯設置工事、監視カメラシステム設置工事1,273千円</li> </ul>					費用対効果	B		
事業費 (単位:千円)			前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費	19,121	17,490	17,131	17,131	17,131	17,131	17,131	
		国庫支出金								
		県支出金								
		地方債(10万円単位で積算)								
		その他	1,273	200	200	200	200	200	200	
うち ふるさと応援基金	1,273									
うち 地域振興基金										
一般財源	17,848	17,290	16,931	16,931	16,931	16,931	16,931			
財源説明		R7~200千円 (歴史文化交流館企画展示観覧料)								

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
---------------------	--------------

総合戦略事業シート					【資料2】		No.	⑭		
評価対象事業分類		(1) 目標指標達成根拠事業			(3) ふるさと応援基金 充当・地方債活用事業					
具体事業		事業整理番号	664	事業名称	歴史文化交流館企画展示等事業費					
施策体系	横断・基本目標	Ⅲ. 産業・観光振興による活力のあるまち			総合戦略	戦略体系	基本戦略1_定住の基盤となるしごと			
	基本施策	5. 戦略的な観光の推進				主要施策	(4) 戦略的な観光の推進			
	具体施策	①観光地域づくりの推進			担当部署	教育委員会文化振興課				
進捗管理		目標指標	益田市立歴史文化交流館の来館者数							
			R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率
		目標	/						6,500	162.0%
実績	/						7,836	10,531		
事業概要		<p>【事業目的】 益田市立歴史文化交流館において、企画展示及び関連事業を実施することで、市内文化施設の周遊促進を図る。</p> <p>【事業内容】 益田市歴史文化交流館に於いて企画展を実施する経費。</p>								
事業検証 (R6)		【現状】	入館者数の増を図るため、四季にわたり企画展を実施。中でも全国山城サミット開催に併せ、特別展「中世益田の山城」を実施し、目標を上回る来館があった。				R6に対する自己評価	現状把握	A	
		【課題】	他の文化施設との連携・協力をより一層強化し、周遊促進を図るための取り組みが課題となっている。					課題把握	B	
		【対策】	展示ルームの展示について、通常展示の実施などにより観覧可能な日数を増やす。周遊促進を図るため、他館及び他事業との連携企画等を実施し、来館者数の増を目指す。					対応策検討	B	
積算根拠 (R6)		旅費 8千円 需用費 1,056千円 役務費 100千円 委託料 261千円 使用料及び賃借料 75千円				費用対効果			A	
事業費 (単位:千円)			前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間					
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		総事業費	1,500	769	3,000	1,500	1,500	1,500	1,500	
		国庫支出金								
		県支出金								
		地方債 (10万円単位で積算)								
		その他	1,500	769	3,000	1,500	1,500	1,500	1,500	
うち ふるさと応援基金	1,500	769	3,000	1,500	1,500	1,500	1,500			
うち 地域振興基金										
一般財源										
財源説明		ふるさと応援基金繰入金								

【評価】

外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり
------------------	--------------

令和6年度企業版ふるさと納税活用事業実績【資料2 ⑮】

<p>事業名</p>	<p>益田市・まち・ひと・しごと創生推進事業 (益田市版「ツナガル」事業)</p>
<p>事業費</p>	<p>6,697,801円</p>
<p>取組内容</p>	<p>【事業概要】          県外の大学等に進学後、就職活動が始まるまでの間、地元とのつながりが希薄になり、Uターン就職への関心や情報量が低下していることから、訴求力のある情報の発信やプログラムなどの活動機会の提供等により、学生の市内就職を促進する取組を経年的（令和4年度～）に実施している事業。          令和6年度では、下記の①～③の事業を実施した。</p> <p>①オンラインでつながる事業          益田市出身者との繋がりを作り、SNS（LINE公式アカウント「ますだより」）を活用したコミュニティづくりと、益田市を楽しむイベント・催し物等の情報発信、益田暮らしを楽しんでいる人のリアルな暮らしぶりの紹介、おたすけ情報（交通費補助等）の発信を行う事業</p> <p>②ひとづくりでつながる（つながり続ける）事業          益田市出身者と繋がり続け、関係性を薄れさせないことを目的とし、帰省時等に参加及び参画できる、益田市の地域や企業を切り口とした多面的な現地情報を体感出来る益田版インターンシップ（就業体験・ライフキャリア体験）プログラムの作成支援、インターンシップの運営支援（集客・広報・運営・伴走サポート）を行う事業          長期休暇中に益田市出身者が気軽に参加できる地元体験プログラムを一体的に募集し、益田の魅力を感じられる機会を創出する事業</p> <p>③東京・大阪拠点でつながる事業          ライフキャリア教育により培った経験や県外で得た知識等を活かせる場、また故郷の様々な情報を得ることができる場として東京・大阪拠点を開設          【東京拠点】委託先：学校法人 大正大学          ・拠点の運営（大学所有の4施設を調整して利用）          ・市出身者を対象とした交流会の開催          ・市内中学校修学旅行対応          ・益田地域フェア等の開催          【大阪拠点】委託先：特定非営利活動法人 志塾フリースクール          ・拠点の運営（MASUDA BACKS）          ・常設のコワーキングの利用          ・定期的な交流の場の提供          ・就労相談          ・益田ツアー</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>3/5イベント 益田をぎゅっとつめこんだ1日</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>3/6イベント ひろしま新生活ゆるっと交流会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>6/30関東拠点イベント MASUDA交流会in東京</p> </div> </div>

上記①～③の事業における成果目標と実績値

①LINE登録者数

目標値：1,457名 実績値：1,284名

【参考】

区 分	高校1年生	高校2年生	高校3年生	2023卒業生	2024卒業生	※R7.3.31現在			
						大学生	専門学生	社会人	市外 小中高校
生徒総数	533	495	518	516	459				
登録者数	1	1	194	109	175	331	138	326	9
登録者割合	0.2%	0.2%	37.5%	21.1%	38.1%				

②イベント等に参加した人数（大学生等）

目標値：25名 実績値：18名

【参考】

- ・夏のインターンシップ受入プログラム（市内3社参加、受入数4名）
- ・春のインターンシップ受入プログラム（市内1社参加、受入数3名）
- ・夏休み地元体験プログラム（算数・数学パワーアップ教室等、参加者数5名）
- ・春休み地元体験プログラム（放課後児童クラブ、参加者数1名）
- ・ひろしま新生活ゆるっと交流会（大学生2名、高校生3名）

③イベント等に参加した人数（高校生、大学生等）

目標値：88名 実績値：33名

関西（意識変容）「益田市にいつかは帰りたい」

よくそう思う25.0%（前回20.0%）

そう思う 33.3%（前回20.0%）

【参考】

関東拠点イベント

- ・6/30（日）「MASUDA交流会in東京」  
参加者7名（大学生5名、うち出身大学生1名）
- ・2/15（土）「地域実習報告会」  
参加者15名（大学生2名、市内高校生1名）

関西拠点（MASDA BACKS）イベント

- ・4/28（日）「新年度交流会」 参加者12名（市出身者6名）
- ・6/29（土）「交流会」 参加者15名（市出身者6名）
- ・8/12（月）「交流会」 参加者15名（市出身者2名）
- ・9/24（火）「交流会」 参加者9名（市出身者6名）
- ・12/28（土）「交流会」 参加者25名（市出身者5名）
- ・3/8（土）「年度末交流会」 参加者12名（市出身者6名）

成果

今後の事業  
展開

県モデル事業の終了に伴い、本事業を終了し、後継事業として「若者還流・定着推進事業」を実施する。

①LINE等を活用した情報発信事業

地元と市内高校卒業生との継続的なつながり作りや市内就職の意識の向上を目的に市出身学生、その保護者等を対象にLINE等を活用して、市内イベント情報やインターンシップ情報などを発信する。

②益田暮らし体験プログラム・益田市と関わり続ける交流事業

長期休暇を含め年間通じて市出身学生等が益田暮らしを体験できるプログラムを構築し、気軽に参加できる仕組みを構築する。また、市出身学生グループ等を対象に地元で活躍する大人との交流など益田暮らしを体験できる交流事業を実施する。

③採用力向上支援事業

市内企業が行っている採用活動に対して、困りごと相談や課題解決に向けたアドバイス等の個別支援を行う。

外部有識者  
による評価  
（ご意見）

別紙「審議結果」のとおり

総合戦略事業シート				【資料2】	No.	⑮				
評価対象事業分類	(1) 目標指標達成根拠事業		(3) ふるさと応援基金 充当・地方債活用事業							
具体事業	事業整理番号	50	事業名称	益田市版「ツナガル」事業費						
施策体系	横断・基本目標	VI. 人と人がつながり、支え合うまち		総合戦略	戦略体系	基本戦略3_益田に回帰・流入・定着				
	基本施策	4. 移住・定住の促進			主要施策	(1) U・Iターンの推進				
	具体施策	①U・Iターンの支援			担当部署	政策企画局政策企画課				
進捗管理	目標指標	県外からのU・Iターン者数								
		R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R6/R7 達成率	
	目標 実績	単年 162人/年	162人/年	165人/年	217人/年	173人/年	195人/年	230人/年	84.8%	
事業概要	<p>県外の大学等に進学後、就職活動が始まるまでの間、地元とのつながりが希薄になり、Uターン就職への関心や情報量が低下していることから、訴求力のある情報の発信やインターンシップ制度の導入などの活動機会の提供等により、学生の市内就職を促進する取組を経年的（令和4年度～）に実施する。（県モデル事業採択済）</p> <p>①オンラインでつながる事業（LINEを活用したコミュニティづくりとLINE掲載記事の作成及び情報発信）</p> <p>②ひとつづくりでつながる事業（インターンシップ制度導入のための受入企業の掘り起し及び受入プログラム作成支援）</p> <p>③東京・大阪拠点でつながる事業（ライフキャリア教育により培った経験や県外で得た知識等を活かせる場、故郷の様々な情報を得ることができる場として拠点を開設）</p>									
事業検証 (R6)	【現状】	<p>令和4年度から「県内高校卒業生とのつながり創出モデル事業」として上記①～③の事業を実施</p> <p>①LINE公式アカウント「ますだより」を活用した情報発信（R7.3月末：1,284名登録、うち高校3年生194名登録）</p> <p>②益田版インターンシップ（就業体験＋ライフキャリア体験）の情報発信・受入サポートを12事業所で実施、学生が7名参加。</p> <p>③活動拠点での交流イベント開催、就労支援等を実施</p> <p>○交流イベント参加人数（市出身者）：延べ80名（東京：75名、大阪：5名）</p> <p>○拠点事業に対する満足度、意識変容</p> <p>関東：「交流会に参加して益田市の魅力について考えることができた」 ⇒とてもそう思う36.4% そう思う63.6%</p> <p>関西：「益田市のイメージが良くなった、いつかは帰りたいと思う」 ⇒よくそう思う25.0%（前回:20.0%） そう思う33.3%（前回:20.0%）</p>						R6 に対する 自己評価	現状把握	B
	【課題】	<p>①学生とのつながりを継続するために有益な情報発信が必要。</p> <p>②仕事体験やインターンシップは就職活動のイメージが強いいため、その前段階で就職を意識せず、気軽に参加できる地元体験プログラム提供し、参加してもらう取組が必要。</p> <p>③市出身大学生の状況を把握できていないため、適切な情報発信ができず、参加者の確保や繋がりづくりを進めることが難しかった。拠点利用により若者同士の繋がりが生まれたが、利用者が固定化されており、限定的な利用にとどまった。</p>							課題把握	B
	【対策】	<p>県モデル事業の終了に伴い、本事業を終了し、後継事業として「若者還流・定着推進事業」を実施する。</p> <p>①LINE等を活用した情報発信事業 地元と市内高校卒業生との継続的なつながり作りや市内就職の意識の向上を目的に市出身学生、その保護者等を対象にLINE等を活用して、市内イベント情報やインターンシップ情報などを発信する。</p> <p>②益田暮らし体験プログラム・益田市と関わり続ける交流事業 長期休暇を含め年間通じて市出身学生等が益田暮らしを体験できるプログラムを構築し、気軽に参加できる仕組みを構築する。また、市出身学生グループ等を対象に地元で活躍する大人との交流など益田暮らしを体験できる交流事業を実施する。</p> <p>③採用力向上支援事業 市内企業が行っている採用活動に対して、困りごと相談や課題解決に向けたアドバイス等の個別支援を行う。</p>							対応策検討	A
積算根拠 (R6)	<p>○報償費（算数・数学パワーアップ教室講師謝礼、ひろしま新生活交流会謝礼） 45千円</p> <p>○旅費（東京拠点の打合せ、広島市内大学訪問、ひろしま新生活交流会費用弁償等） 164千円</p> <p>○需用費（消耗品費、印刷製本費） 114千円</p> <p>○役員費（算数・数学パワーアップ教室講師傷害保険料） 2千円</p> <p>○委託料（卒業生コミュニティ構築事業委託料、インターンシップ構築発信支援業務委託料、県外拠点化推進事業委託料） 6,366千円</p> <p>○使用料及び賃借料（ひろしま新生活交流会会場使用料） 7千円</p>						費用対効果	C		
事業費 (単位:千円)		前年度 (実績)	今年度 (予算)	中期財政計画対象期間 次期総合戦略対象期間						
		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12		
	総事業費	6,698								
	国庫支出金	1,639								
	県支出金	3,278								
	地方債(10万円単位で積算)									
	その他	1,781								
うち ふるさと応援基金 うち 地域振興基金	1,681									
一般財源	0									
財源説明	デジタル田園都市国家構想交付金（国R6まで）、県内高校卒業生とのつながり創出事業補助金（県R6まで）、地方創生応援税制寄附金、ふるさと応援基金繰入金									

【評価】	
外部有識者による評価 (ご意見)	別紙「審議結果」のとおり

県内高校卒業生とのつながり創出モデル事業（県事業）が令和6年度末をもって終了となったことから、本事業も同様に終了し、令和7年度から、後継事業として「若者還流・定着推進事業」を実施している。